

NEWS
なひとCG界のノーベル賞を受賞
帰郷し、東京とのパイプ役に

広島修道大 経済科学部

西田 友是 教授



リアルな映像、滑らかなアニメーションなどを作るCG（コンピュータグラフィクス）の最新技術を研究、発表し続け、2005年には世界のCG界のノーベル賞といわれるステイブロン・A・クーンズ賞をアジアで初めて受賞。13年から故郷の広島に拠点を移した。

「CGは映画やゲームのほか医療、システム開発などさまざまな分野で役立ち、生活を向上させる大事な技術です。学生時代に広島大工学部の中前栄八郎教授の下で陰影の表現法な

どの論文を発表し、それをきっかけに東京、世界を舞台に活動するようになりました。もともと国内のCG研究は広島が最先端だったんですよ」

1973年の広島大大学院修了後、マツダに6年間勤務。福山大学の講師、教授を経て、94年から東京大と同大大学院の教授を務めた。東京での長年の生活、教授や企業の顧問などの経験を生かし、広島のIT企業のサポートを始める。

「故郷が拠点だという気持ちはずっとあり、定年を機に広島に戻ってきました。今後は東京の会社とのパイプ役になって地元産業に貢献したい。将来は広島を国際的なCGの拠点にしたいですね」

修道大で教壇に立つ一方、東京のITベンチャー内で研究を続ける。「CGが市民権を得られてない時を乗り越えて研究を続けられたのは、皆さまが支えてくださったからです。次世代を担う若者を育てたい」